

**大飯発電所第3号機及び第4号機における特別な監視体制**  
(原子力安全・保安院による確認状況)  
(8月23日(木) 14:00時点・週報)

原子力安全・保安院  
地域原子力安全統括安全管理官

## 1. これまでの作業等の確認状況

### ○大飯発電所における監視

- ・大飯原子力保安検査官事務所の検査官に加え、以下の体制で監視を実施
- ・8月15日から8月17日：敦賀原子力保安検査官事務所検査官
- ・8月18日から8月20日：川内原子力保安検査官事務所検査官
- ・8月21日から8月22日：美浜原子力保安検査官事務所検査官

### <3号機>

#### ○事業者の主な作業

- ・定格熱出力一定運転中

#### ○確認状況

- ・中央制御室における警報監視を実施
- ・異常なし。

### <4号機>

#### ○事業者の主な作業

- ・定格熱出力一定運転中

#### ○確認状況

- ・中央制御室における警報監視を実施
- ・異常なし。

## 2. トラブル等の状況

- ・大飯4号機「一次冷却材飽和温度注意」警報発信監視中。異常なし。
- ・8月16日：20時36分頃、大飯発電所3, 4号機海水淡水化装置の「起動排水槽水位高」の警報が発生。現場を確認したところ淡水化处理した海水（アルカリ性、pH9）が起動排水槽マンホールからあふれているのを確認した。あふれの原因は、起動排水槽のpH計に空気が混入する等の要因によってpH計の数値が低い値を示し、pHを上げる薬品が自動的に注入されたため、排水のpHが高くなり、pHが高い排水を排水監視槽から起動排水槽に戻す運転状態において、警報が発生した際の具体的な手順が明確でなく、排水監視槽のポンプを直ちに停止しなかったためと推定された。その後pH計などの点検を行い、8月20日までに警報発生時には排水ポンプの運転を停止するよう運転マニュアルの手順に明確にした。8月21日から海水淡水化装置を順次起動した。3, 4号機の運転に影響なし。
- ・8月18日：大飯3号機、4号機の取水口付近に大量のクラゲが来襲したことに伴い、冷却用の海水の取水量を減らしたことから、電気出力が一時的に3号機で2.1万キロワット、4号機で0.5万キロワット低下（18時18分頃）。原子炉の安全性には影響なし。

- ・ 8月21日：15時36分、大飯発電所3，4号で「34-1次系補機EWS故障」警報発生。廃棄物処理施設等の制御システムの保守管理用ワークステーションの2台あるハードディスクのうち1台が故障しており、当該ハードディスクを新品に交換することとした。大飯発電所3，4号機の運転への影響、放射性物質による外部への影響はない。
- ・ 8月23日：0時30分頃、大飯発電所4号機の電動主給水ポンプの定例試験時に、同ポンプ出口圧力が変動したためポンプを手動停止。確認したところ、定例試験の際に使用するミニマムフローラインにある弁（試験時には開いている弁）が閉止しており、同弁の開閉状態を確認するための部品が外れていた。このため、外れた部品を取り付けたのち電動主給水ポンプの起動試験を行い、10時58分までに同ポンプは自動起動待機状態に復帰した。原因は固定していた部品の一部にガタつきがあった可能性があり、振動などによりゆるみ外れたものと推定。大飯発電所4号機の運転への影響、放射性物質による外部への影響はない。

### **3. その他特記事項**

- ・ 大飯オフサイトセンターに職員が日直勤務  
8月18日から8月19日：浜岡原子力保安検査官事務所検査官